



2018年5月29日

帰宅困難者対策図上訓練ツール「KUG【企業内滞留版】」の共同開発および 同ツールを活用した訓練支援サービスの提供開始

SOMPOリスクアマネジメント株式会社（本社：東京都新宿区、代表取締役社長：布施 康、以下「SOMPOリスクア」）は、東京大学大学院の廣井悠准教授（工学系研究科 都市工学専攻）と共同で大規模地震発生後の役職員の事業所内滞留対応を短時間かつ少人数で疑似体験できる図上訓練ツール「KUG^{*1}【企業内滞留版】」（以下「本ゲーム」）を開発し、5月29日から、主に都市部のオフィスビルに入居する事業所を対象に、本ゲームを活用した訓練支援サービス（「本サービス」）の提供を開始します。

*1 「帰宅困難者支援施設運営ゲーム」の略で、身の寄せ所のない帰宅困難者を滞留させる「一時滞在施設」を対象とする【一時滞在施設版】と、その発生を抑制するための、役職員等の企業内滞留を対象とする本ゲームの2種類が開発されています。本ゲームは、企業の帰宅困難者対策を広く支援することを目的に、東京大学大学院の廣井悠准教授のホームページ上（http://www.u-hiroi.net/KUG2_ver1.4_20180316.zip）で2018年3月から無償公開されており、どなたでもすぐにお試しいただくことができます（2018年5月末以降にリニューアル版が公開される予定です）。なお、【一時滞在施設版】も、本ゲームと同様に、SOMPOリスクアが廣井悠准教授と共同開発し、廣井悠准教授のホームページ上で無償公開されています。

1. 背景

2011年の東日本大震災では、首都圏を中心に約550万人の帰宅困難者が発生しました。その後、帰宅困難者対策は、大都市における社会的な課題として認識されるようになりました。例えば、東京都では帰宅困難者対策条例（2012年3月30日）のもと、都内の事業者は、大規模地震発生時に最大3日間、役職員を事業所内に滞留させるよう努めることが求められています。

大規模地震発生時の企業等の最大の使命は、役職員の安全を確保することです。大規模地震発生から一定期間、役職員を安全に事業所内に滞留させるためには、事業所内のハード面での耐震対策だけでなく、多様な役職員への対応とそれに伴う備蓄品の準備や対応体制の整備等、事前準備が不可欠です。このような準備態勢の有効性を検証するためには、多数の役職員を事業所内に数日間滞留させることを想定したシミュレーション訓練が効果的です。しかし、周到的な準備、多くの役職員の協力および時間の確保が必要となるとともに、役職員一人一人の事情を考慮できないのが実情です。

こうした背景の下、SOMPOリスクアは、東京大学大学院の廣井悠准教授と本ゲームを共同開発し、本ゲームを活用したサービスの提供を開始することとしました。

2. 本ゲームの概要

本ゲームは、大規模地震発生後に事業所内で発生しうるさまざまな局面や課題について、事業所内の役職員対応を中心に、3時間程度かつ少人数で簡易に疑似体験しマニュアルの整備や検証ができる図上訓練ツールです。これから大規模地震発生時の役職員対応について検討を開始する企業等にも、既に役職員対応を定めた初動マニュアル等を整備している企業等がその検証をする場合にも活用できる内容となっており、災害への対応を具体的にイメージできるように設計されています（各企業が自社の事業所に合わせてカスタマイズすることも可能です）。

本ゲームで、プレイヤーは、被災した事業所の災害対策本部のメンバーとして、個々の事情を抱えた役職員等からの相談・問い合わせ、事業所外からの連絡、傷病者の発生等のさまざまなイベントに対応することが求められます。ゲーム実施後には、所属する事業所が抱える課題と

その対策を整理・共有して、マニュアルの策定や既存マニュアルの改善に繋げることができるようにワークシートで振り返りを行います（本ゲームの主な構成・実施イメージ等は〈別紙〉ご参照）。

3. 本サービスの概要

SOMPOリスクアの専門コンサルタントが、お客さまの事情に合わせて本ゲームのカスタマイズ版を作成するとともに、カスタマイズしたゲームの実施を支援します。お客さまは、自社の事情を反映した大規模地震想定の中動対応訓練を実施できます（ご要望により、本ゲーム（カスタマイズ前）の実施支援もします）。

(1) 特長

役職員がそれぞれ個性を持ち多様な事情を抱えているという視点に立った中動対応訓練を支援します。

(2) 費用・期間^(*2)

【1】費用

50万円（税抜、交通費別）～

（本ゲーム（カスタマイズ前）の実施支援：20万円（税抜、交通費別）～）

【2】期間

準備期間：1～2ヶ月（お打合せ1～3回の場合）／本ゲーム実施時間：3時間程度

*2 カスタマイズの範囲・程度により異なります。

4. 今後の展開

SOMPOリスクアは、東京大学大学院の廣井悠准教授と共同で本ゲームの改良を進めるとともに、企業に対して大規模地震を想定した中動対応訓練の実施を支援してまいります。

SOMPOリスクアマネジメントについて

SOMPOリスクアマネジメント株式会社は、損害保険ジャパン日本興亜株式会社を中核とするSOMPOホールディングスのグループ会社です。「リスクマネジメント事業」「ヘルスケア事業」「サイバーセキュリティ事業」を展開し、全社的リスクマネジメント（ERM）、事業継続（BCM・BCP）、健康経営推進支援、特定保健指導・健康相談、メンタルヘルス対策、サイバー攻撃対策などのソリューション・サービスを提供しています。

ツールおよびサービス内容に関するお問い合わせ先

SOMPOリスクアマネジメント株式会社 リスクマネジメント事業本部

BCMコンサルティング部 [担当：新藤、宮田]

〒160-0023 東京都新宿区西新宿 1-24-1 エステック情報ビル

TEL：03-3349-5984（直通）

報道機関の方からのお問い合わせ先

SOMPOリスクアマネジメント株式会社

経営企画部 [担当：田所]

〒160-0023 東京都新宿区西新宿 1-24-1 エステック情報ビル

TEL：03-3349-5468（直通）

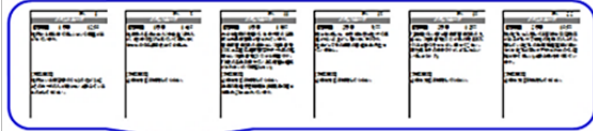
以上

7. ゲームの進め方(6/7)

約 70分

(4) イベントへ対応する。

- ・ 進行担当が「イベントカード」をめくりますので、「対応事項」の内容を検討してください。(1イベント 約1～5分)
 (注)該当者がいない場合には「該当者なし」とします。
 (注)進行担当がいない場合には各班でめくります。
- ・ イベントを踏まえて参加者のみなさんと**滞留方針を検討**して、帰宅させる判断をした従業員等は帰宅させてください(「帰宅者入れ」に入れる)。
- ・ 滞留方針を変更した場合は、「滞留方針一覧」に反映してください。
- ・ 決定した事項は、ホワイトボード等に記録してください。



東京大学応用研究室, SIMPO-4C

26

3. 次々に提示されるイベントカードの内容に応じ、対応を検討します。イベントの内容は、報道情報の入手、役職員や来客からの帰宅の申し出や問合せ、事業所内でのトラブル等、様々です。



4. 帰宅希望者に対しては、個別の事情も考慮し、帰宅を許可するか許可しないかを判断します。



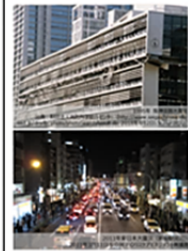
5. フロア・施設の使い方を決めたら、フロアマップに付箋等で示します。

8. “気づき”の共有

約 30～40分

ゲームを通じて、皆さんの所属組織における取組に対して“気づき”はありましたか？付属の「ワークシート」を用いて確認してください。

項目	気づき	気づき	気づき
1. 受付・待合	受付の待ち時間が長くなる可能性がある。	受付の待ち時間が長くなる可能性がある。	A
2. 受付・待合	受付の待ち時間が長くなる可能性がある。	受付の待ち時間が長くなる可能性がある。	B
3. 受付・待合	受付の待ち時間が長くなる可能性がある。	受付の待ち時間が長くなる可能性がある。	C
4. 受付・待合	受付の待ち時間が長くなる可能性がある。	受付の待ち時間が長くなる可能性がある。	D
5. 受付・待合	受付の待ち時間が長くなる可能性がある。	受付の待ち時間が長くなる可能性がある。	E
6. 受付・待合	受付の待ち時間が長くなる可能性がある。	受付の待ち時間が長くなる可能性がある。	F
7. 受付・待合	受付の待ち時間が長くなる可能性がある。	受付の待ち時間が長くなる可能性がある。	G
8. 受付・待合	受付の待ち時間が長くなる可能性がある。	受付の待ち時間が長くなる可能性がある。	H
9. 受付・待合	受付の待ち時間が長くなる可能性がある。	受付の待ち時間が長くなる可能性がある。	I
10. 受付・待合	受付の待ち時間が長くなる可能性がある。	受付の待ち時間が長くなる可能性がある。	J



なお、ゲーム時に出てきた課題の他にも、本ゲーム(キット及び進め方)に対する改善のご提案等も是非お寄せください。

東京大学応用研究室, SIMPO-4C

28

6. ゲーム終了後は、ポイントをもとめたワークシートを使い、「振り返り」を行います。

(3) 本ゲーム体験者の声

2018年2月9日、東京都内の複数の企業の皆さまのご協力のもと、本ゲームを体験していただき、次のような感想を頂戴しています。

「大変勉強になりました。ゲームでシミュレーションできるので、会社の対策本部としても、個人としても、想定できたので、とても良かったです。個人については、会社の安否システムをちゃんと利用しようと思うきっかけになりました。従業員にもこのシミュレーションを体験させたいと思いました。」(メーカー系/総務担当)

「当社にあてはめて考えると対策は必要であるのに、それがなされていない事を痛感した。」(サービス業系/リスク担当)

「初動対応訓練は何度も経験していますが、今まで気づけなかったことに気づかされました。」(システム系/管理担当)

「振り返りのワークシートがとても参考になりました。」(システム系/管理担当)